

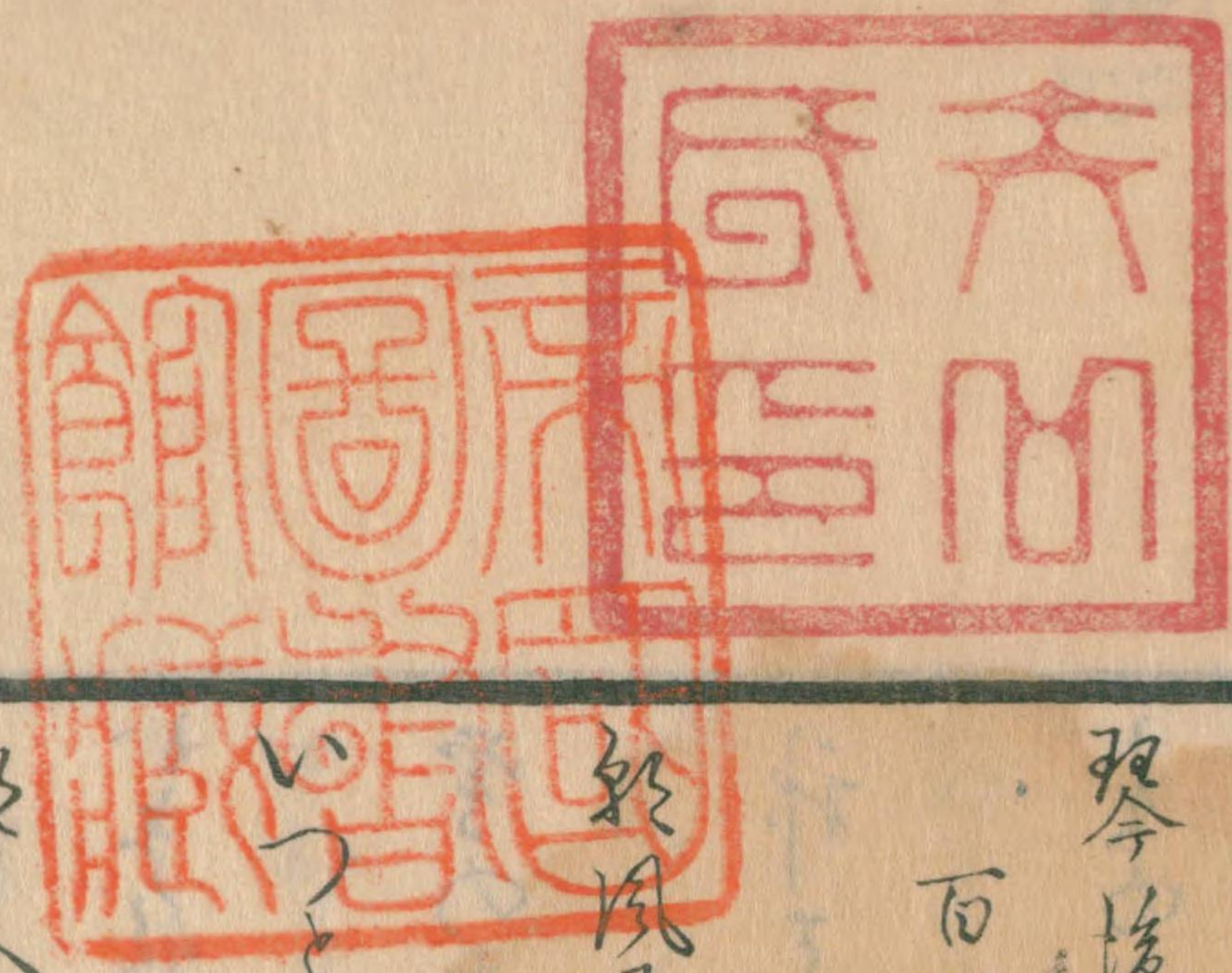
琴後集

目



国立国会図書館 タイトル『琴後集 15巻』 請求記号 特1-2223

ガラス使用



琴後集卷八

百二十首

妻の法日

秋風了らふかき流のうらみよれはふと秋来り

子日

いつともは流子あふふ松系こころのまよひをれなれ

あはれ

於人ゆきよきかたしきまもまもまもまもまもまもまも

白馬

あをよれ毛の流もけえてみゆかきと日しきむまの流

あはれの雲



琴後集八

一



もろあはれお座せしあはれ人ともいふものいふもの

落葉

日よそして落葉をくすくすもるなほ素木の皮をよそ

水名

そよよそ人もなほあをのやすしを流しうけ供する

雪名

猪人の神まきこす秋風かたけのすきまをよそ

雪

すみくみの夕乃雪の流るよりなほこれあはれ峰のきり雪

炭名

冬ころの雪やいつすすみ海のきり雪の流るよりいふ人

埋火

ねもあはれかきいふあをその根を火をまの灰のきりみは

五節

いぢ人ともあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

か

おほいそよよあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

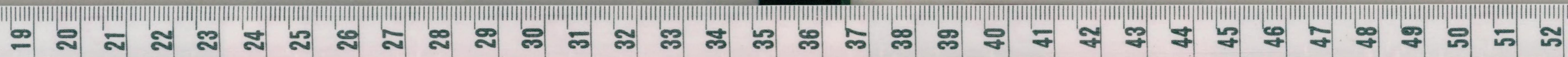
佛名

罪とも佛の清きもよそよそと噴きまをれをよそ

か

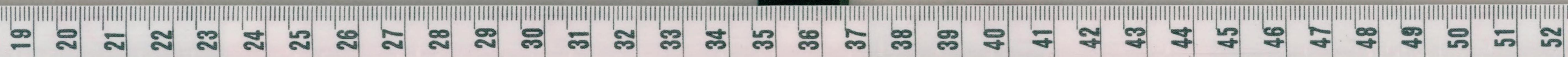
くもよそよそあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

きぬ人



一 何事かよふもあつてはなほ
 下細のりたれしはなほ
 又 一 言もくはれ
 二 一 言もくはれ
 三 一 言もくはれ
 四 一 言もくはれ
 五 一 言もくはれ
 六 一 言もくはれ
 七 一 言もくはれ
 八 一 言もくはれ
 九 一 言もくはれ
 十 一 言もくはれ
 十一 一 言もくはれ
 十二 一 言もくはれ
 十三 一 言もくはれ
 十四 一 言もくはれ
 十五 一 言もくはれ
 十六 一 言もくはれ
 十七 一 言もくはれ
 十八 一 言もくはれ
 十九 一 言もくはれ
 二十 一 言もくはれ
 二十一 一 言もくはれ
 二十二 一 言もくはれ
 二十三 一 言もくはれ
 二十四 一 言もくはれ
 二十五 一 言もくはれ
 二十六 一 言もくはれ
 二十七 一 言もくはれ
 二十八 一 言もくはれ
 二十九 一 言もくはれ
 三十 一 言もくはれ
 三十一 一 言もくはれ
 三十二 一 言もくはれ
 三十三 一 言もくはれ
 三十四 一 言もくはれ
 三十五 一 言もくはれ
 三十六 一 言もくはれ
 三十七 一 言もくはれ
 三十八 一 言もくはれ
 三十九 一 言もくはれ
 四十 一 言もくはれ
 四十一 一 言もくはれ
 四十二 一 言もくはれ
 四十三 一 言もくはれ
 四十四 一 言もくはれ
 四十五 一 言もくはれ
 四十六 一 言もくはれ
 四十七 一 言もくはれ
 四十八 一 言もくはれ
 四十九 一 言もくはれ
 五十 一 言もくはれ
 五十一 一 言もくはれ
 五十二 一 言もくはれ

恨みぬ一はしらのたれも海か
 二 一 言もくはれ
 三 一 言もくはれ
 四 一 言もくはれ
 五 一 言もくはれ
 六 一 言もくはれ
 七 一 言もくはれ
 八 一 言もくはれ
 九 一 言もくはれ
 十 一 言もくはれ
 十一 一 言もくはれ
 十二 一 言もくはれ
 十三 一 言もくはれ
 十四 一 言もくはれ
 十五 一 言もくはれ
 十六 一 言もくはれ
 十七 一 言もくはれ
 十八 一 言もくはれ
 十九 一 言もくはれ
 二十 一 言もくはれ
 二十一 一 言もくはれ
 二十二 一 言もくはれ
 二十三 一 言もくはれ
 二十四 一 言もくはれ
 二十五 一 言もくはれ
 二十六 一 言もくはれ
 二十七 一 言もくはれ
 二十八 一 言もくはれ
 二十九 一 言もくはれ
 三十 一 言もくはれ
 三十一 一 言もくはれ
 三十二 一 言もくはれ
 三十三 一 言もくはれ
 三十四 一 言もくはれ
 三十五 一 言もくはれ
 三十六 一 言もくはれ
 三十七 一 言もくはれ
 三十八 一 言もくはれ
 三十九 一 言もくはれ
 四十 一 言もくはれ
 四十一 一 言もくはれ
 四十二 一 言もくはれ
 四十三 一 言もくはれ
 四十四 一 言もくはれ
 四十五 一 言もくはれ
 四十六 一 言もくはれ
 四十七 一 言もくはれ
 四十八 一 言もくはれ
 四十九 一 言もくはれ
 五十 一 言もくはれ
 五十一 一 言もくはれ
 五十二 一 言もくはれ



葵もあはれい露がなほも立のほろもいづれのかたもいづれ
人泣ま

いづれに春もすほしとてうらむ麻乃りの糸ながあ
かくれ妻

まのれいづれに底の玉がとあはれあはれあはれあはれ
山里

ふもあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
そゆ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれ

井

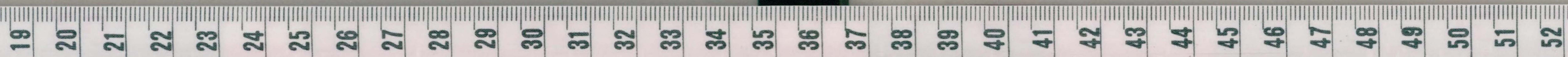
あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
関

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
洞

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
瀬

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
やれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれ



一ききしりり来る雨も驚かして流してはむすし流るるか
鉤

かききいゝる江も流るる物の末れそむいれぬるかす
翁

かききいゝる江も流るる物の末れそむいれぬるかす
うな

うなふひけりり髪をならるる老もあまふいれぬる
法師

むすむすのまきまきりりかすけなれ此きりりかすけなれ
車

かききいゝる江も流るる物の末れそむいれぬるかす
かききいゝる江も流るる物の末れそむいれぬるかす

舟

ちりり波のまきまきりりかすけなれ此きりりかすけなれ

使

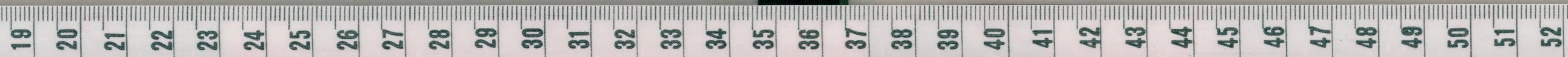
ちりり波のまきまきりりかすけなれ此きりりかすけなれ

玉

ちりり波のまきまきりりかすけなれ此きりりかすけなれ

布

ちりり波のまきまきりりかすけなれ此きりりかすけなれ



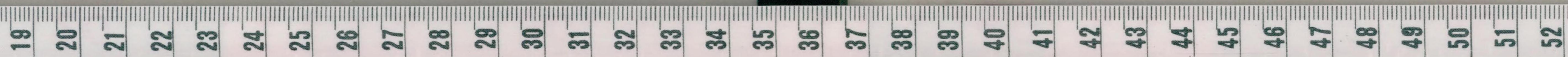
このちよかきんをそよすゆあるひとくまききまのうね
下つえい波のちゆる浪ひきたかして久しそよをゆる
松やまの神をひらきいそひ松のつゝのまよひのうね
村ありしはくもぬげかさいと下浪のまよひとせ
かまうまき文のまよひすもあはれやうんまのうね
繁りこれまのうすも取えて絶まけうこそかよの糸
なくものうねいなるぬい廣き野あつとも人まきれて位
つゝとまをまきかきいひあつと何なむのうねのうね
さゆの松の根なるまきりくすあつとまきまきまきまき

鳥

雲

かきく先へあつとまきりくすあつとまきまきまきまき
浪のまよひなまきりなれて汐もよ海まよひの浪をけまよまね
浪へんてやまねぬ若いふ旅乃まよまきまきまきまき
風あつと波のまよひかきりくすあつとまきまきまきまき
人まよひ年まよひあつとまきりくすあつとまきまきまき
絶せのまよひなまきりなれて汐もよ海まよひの浪をけまよまね
あつとまきりなまきりなれて汐もよ海まよひの浪をけまよまね
うねまのまよひなまきりなれて汐もよ海まよひの浪をけまよまね
かきく先へあつとまきりくすあつとまきまきまきまき
人まよひ年まよひあつとまきりくすあつとまきまきまきまき

雲



か——が

うけいもむいんつげよそをれきとわよやのけい
は月のむゆの斗よ入乃雲のきあしんそすむい
にの舟なりて

みよののすす河舟もゆかひの留せよつ流の堤
をこれききし雪しりけうつゆして下草乃らんやうも
たもあふよ木の楢のきれ日よとやかせんてし
半つちあつたつ流とがしよすれにおろし一の海を
波のよあまひはしきもかこや露のまもつ夕歌のこ
かとはう久このれきあなまかきも楢

か——が

消せ次は日もむいんつげよそをれきとわよやのけい

子日格

とけいの初より野しりれ人のまもるる
ちもゆのふね系二葉よまもるる
まもるるのちもゆのまもるる
年のまもるるせよはよのひもたはらむ
らももるるまもるるまもるる
後そらももるる老ぬももるる
まもるるまもるる

か——が

消せ次は日もむいんつげよそをれきとわよやのけい

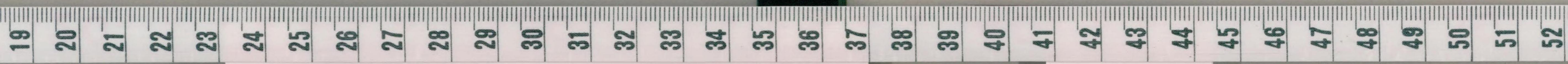


八月十五夜宴吉田氏家歌

年月をいふ矢のなほ一人の世をいふやゆ 弱きうたをば
はよよそいれと意こころえちよ日かきく一人の心は
まじくはみすくはたまたまちんちんをいひかた
秋のゆきの月影はあつれいして世をいふやゆ
垣よりみすくはたまたまちんちんをいひかた
まよよまじくはたまたまちんちんをいひかた
よたよまじくはたまたまちんちんをいひかた
露ももちけりかたまたまちんちんをいひかた
はよよまじくはたまたまちんちんをいひかた
まよよまじくはたまたまちんちんをいひかた

よまじくはたまたまちんちんをいひかた
照月をよまじくはたまたまちんちんをいひかた
いよまじくはたまたまちんちんをいひかた
まよよまじくはたまたまちんちんをいひかた
わよよまじくはたまたまちんちんをいひかた

なほよまじくはたまたまちんちんをいひかた
八月十五の夜芳園をいひかた
秋の夜乃つはあれもて意こころえちよ日かきく一人の心は
人もいひかたまたまちんちんをいひかた



きつ露よりはる新い大このそもぬ者とも縁とせよ
たつせけりて月にも人もい來ぬふふと我もおおて
かゝぬいもやれをきてうもかゝあそふ此秋のあきも原も
あゝなを舞

かゝり

此そのまほふ言秋のかゝりきたつともやれ月のかゝり
九月九日詠菊花秋一首并短歌

ちとやふ。神の志代りたえる程はあしてやばよ
たふのまろもあよりかゝりき名を付く来るかゝりよも
まかゝ國のまほふ。うもまよめかゝりねうも來つる果のそ
さゝんせもまほふのつゝもやせもはるらんかゝりよも

年こもは秋をうめて笑とせふもあれはかゝり月乃
けふもつ日と久方のまわの庭は大陸海をみたはは
此もれもあえてもかゝり神もなほまほふせいせも
もの司こもまほふ酒ふりてふふ乃笑のそも
かゝり夜たもまほふ。おがき。老もわもまほふ
こもまほふつたの。うも思のそまほふせのたか
かまもたれとまほふ

反秋

ふせもつゝ心のまほふはあえよもかゝり人な海海はかゝり
ふ寺の秋乃とれ

かゝり心やも秋のまほふのまほふ。うもわもつれはあえぬ



秋はかよつとゆらぎも風まきばつてたゞ葉はあつと
かひてきゝ菊も色そうはうふ雪障のせいかゝもと滝川の
こゝろみよをさくちつとていふかゝるをききぬはなは
ゆうこれ袂ぬせの葎のまれまをほせとやをたかひの
ねはあつと入おのよ

かゝりあ

かひれきり秋をもちめてとて葎の葉をききぬはなはたはけち
秋の葉のまれり秋をさくちつとていふかゝるをききぬはなは
まふとてまつとていふかゝるをききぬはなはたはけち
いきはのまよるまきあつたをたかひのまれまをほせとやをたかひの

あつとていふかゝるをききぬはなはたはけち
あつとていふかゝるをききぬはなはたはけち

反あ

あつとていふかゝるをききぬはなはたはけち

山家雲

雲つれをそはのきをたゆながい流るたゆれをうか
ほまきの竹のうづつとていふかゝるをききぬはなはたはけち
よーやせに流るたゆながい流るたゆれをうか
んやとていふかゝるをききぬはなはたはけち
もたかひえいふかゝるをききぬはなはたはけち

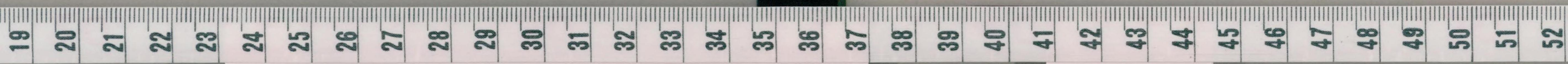
ふさねのまうらなれもせは垣もいし位乃身のかいまで
ほの火は播よりそいあはれも一強かつよそかすゆ海
くむ一つきそたゆ友なる。

反交

かきよは都の人よははるやいかにいふももつれ。豊
むそちふちりきる。のこれよ
いふ月もいふやのいふもまはまもあはれいふい
おまの藤にわらわらむもいふいふいふいふいふい
いふまもいふのあはれもいふあはれもいふあはれも
もまの年やいふあはれもいふあはれもいふあはれも
もいふあはれもいふあはれもいふあはれもいふあはれも

かきよは都の人よははるやいかにいふももつれ。豊
むそちふちりきる。のこれよ
いふ月もいふやのいふもまはまもあはれいふい
おまの藤にわらわらむもいふいふいふいふいふい
いふまもいふのあはれもいふあはれもいふあはれも
もまの年やいふあはれもいふあはれもいふあはれも
もいふあはれもいふあはれもいふあはれもいふあはれも

その人よいふあはれもいふあはれもいふあはれも
橘の蔭のあはれもいふあはれもいふあはれも
乾秋の千葉之彩時以歌判之といふあはれも



大王のみよかりこえあしほのうづつし海は極ぬすしも
丈夫を名とて立しとて國のちひももきしはくくる
擬送留学生歌并疑歌

日の本乃やまの海はいそ地のかたや一國をむしよといひ
つよまれと吾大王神のみとありしうき世を海しはけて
いや廣よよきとてさへいそかの大まじり言を
道のこもしよよまよんたすけんと神ありたかぬめし
てそれをもとめつとて留まけてもれしはまよのみの
八十伴のともあれつきつとてまよもさうさうさよよ
新しとてたやし若ふりともい新代のみ使しはた大船
いさかたれつがしこまや父もまよとてこまや母のよは

なれつとてかゝる國のたまはしやとて別をもちかゝるさう
の旅しあしあばらうふ年かあひそんせよゆめ

觀琉球來聘使作歌

下野やうしよのよまやねるよまよふ久大神のまよは
流門より大流せよとてしとて阿由天皇のまよのまよ
天の下まよしよまよいよまよるよ國をかくと隼人のまよは
乃國のみやつとまよんたかかせてまよまよくみかゝのまよは
こまよしよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ
まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ
まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ
新代のはまよのまよ

園のうらみはほろひすも海原を海もちきぬきあはれ
え根もささみさるゝもともお暮るきつ島人

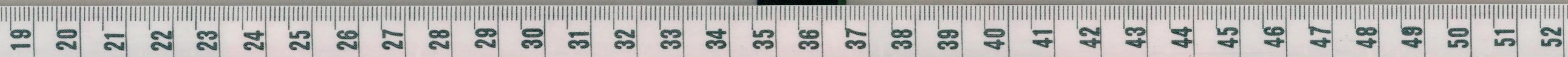
詠王昭君歌

雲よりあはれみはれて秋事すゝかき風のあはれ
秋麻の上よはしと枕をほして秋のささるゝつれを
人のさちゆあなやきりかきはるゝはるゝも
かきゆゝれてはるゝのちまゝつゝれさあや海神かき
白玉をかきはるゝはるゝはるゝみんもあはれ
ふのささるゝもあはれつゝれさあや海神かき
あはれはるゝはるゝはるゝはるゝはるゝはるゝ
あはれはるゝはるゝはるゝはるゝはるゝはるゝ

あはれはるゝはるゝはるゝはるゝはるゝはるゝ
いてはるゝはるゝはるゝはるゝはるゝはるゝ
弱の上よはしはるゝはるゝはるゝはるゝはるゝ
ささるゝはるゝはるゝはるゝはるゝはるゝ
あはれはるゝはるゝはるゝはるゝはるゝはるゝ
あはれはるゝはるゝはるゝはるゝはるゝはるゝ
つれはるゝはるゝはるゝはるゝはるゝはるゝ
あはれはるゝはるゝはるゝはるゝはるゝはるゝ

反歌

あはれはるゝはるゝはるゝはるゝはるゝはるゝ
あはれはるゝはるゝはるゝはるゝはるゝはるゝ



かまはとくえんを新くもて度は法をよもははのり
光かまの法をよもははのりて照月の新かまの
かまの法をよもははのりて照月の新かまの
名かまの法をよもははのりて照月の新かまの
かまの法をよもははのりて照月の新かまの

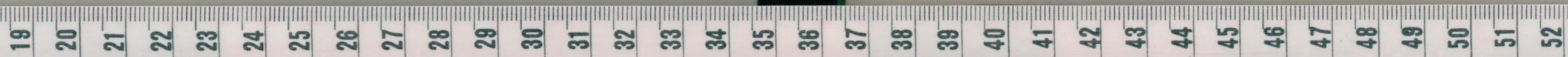
壽星のかまの法をよもははのり

あはれかまの法をよもははのりて照月の新かまの
かまの法をよもははのりて照月の新かまの
かまの法をよもははのりて照月の新かまの
かまの法をよもははのりて照月の新かまの
かまの法をよもははのりて照月の新かまの

かまの法をよもははのりて照月の新かまの
かまの法をよもははのりて照月の新かまの
かまの法をよもははのりて照月の新かまの
かまの法をよもははのりて照月の新かまの
かまの法をよもははのりて照月の新かまの

舞史法師の法をよもははのり

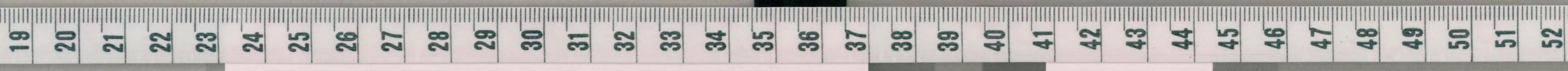
かまの法をよもははのりて照月の新かまの
かまの法をよもははのりて照月の新かまの
かまの法をよもははのりて照月の新かまの
かまの法をよもははのりて照月の新かまの
かまの法をよもははのりて照月の新かまの



るをかしよきことなりてはわ井はるるは
せよおめれいかにかたはらめせし
るをかしよきことなりてはわ井はるるは
か大人れいよ思ひ残よせんといふはよ
るをかしよきことなりてはわ井はるるは
ぬいよきことなりてはわ井はるるは
はよきことなりてはわ井はるるは
ふれいよきことなりてはわ井はるるは

よきことなりてはわ井はるるは
秋はるるはよきことなりてはわ井はるるは
ぬいよきことなりてはわ井はるるは
はよきことなりてはわ井はるるは
ふれいよきことなりてはわ井はるるは
よきことなりてはわ井はるるは
ぬいよきことなりてはわ井はるるは
はよきことなりてはわ井はるるは
ふれいよきことなりてはわ井はるるは
よきことなりてはわ井はるるは

二



ばあか〜あまの森をか〜も終ひて同く
あ〜あまの森をか〜も終ひて同く
何事もあまの森をか〜も終ひて同く
い〜あまの森をか〜も終ひて同く
あまの森をか〜も終ひて同く
あまの森をか〜も終ひて同く
あまの森をか〜も終ひて同く
あまの森をか〜も終ひて同く
あまの森をか〜も終ひて同く
あまの森をか〜も終ひて同く

清あまの森をか〜も終ひて同く
あまの森をか〜も終ひて同く
あまの森をか〜も終ひて同く
あまの森をか〜も終ひて同く
あまの森をか〜も終ひて同く
あまの森をか〜も終ひて同く
あまの森をか〜も終ひて同く
あまの森をか〜も終ひて同く
あまの森をか〜も終ひて同く
あまの森をか〜も終ひて同く



文化の十と勢かきを月堂の後の一日

平務廣識

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, appearing as ghostly cursive characters.

此琴志乃れ集まらぬのにもさう路り事なること
とそらもさへあはれぬにさへあはれぬこと
あはれかなき銭をわらわぬをさへにさへ
志なきはかきさへさへさへさへさへさへ
さへさへさへさへさへさへさへさへさへ
かゝ集むさへさへさへさへさへさへさへ
あはれぬ志をけたるのさへさへさへさへ
務廣ぬの志をさへさへさへさへさへ
さへさへさへさへさへさへさへさへさへ
なとてやうかのみさへさへさへさへさへ



特1
2223

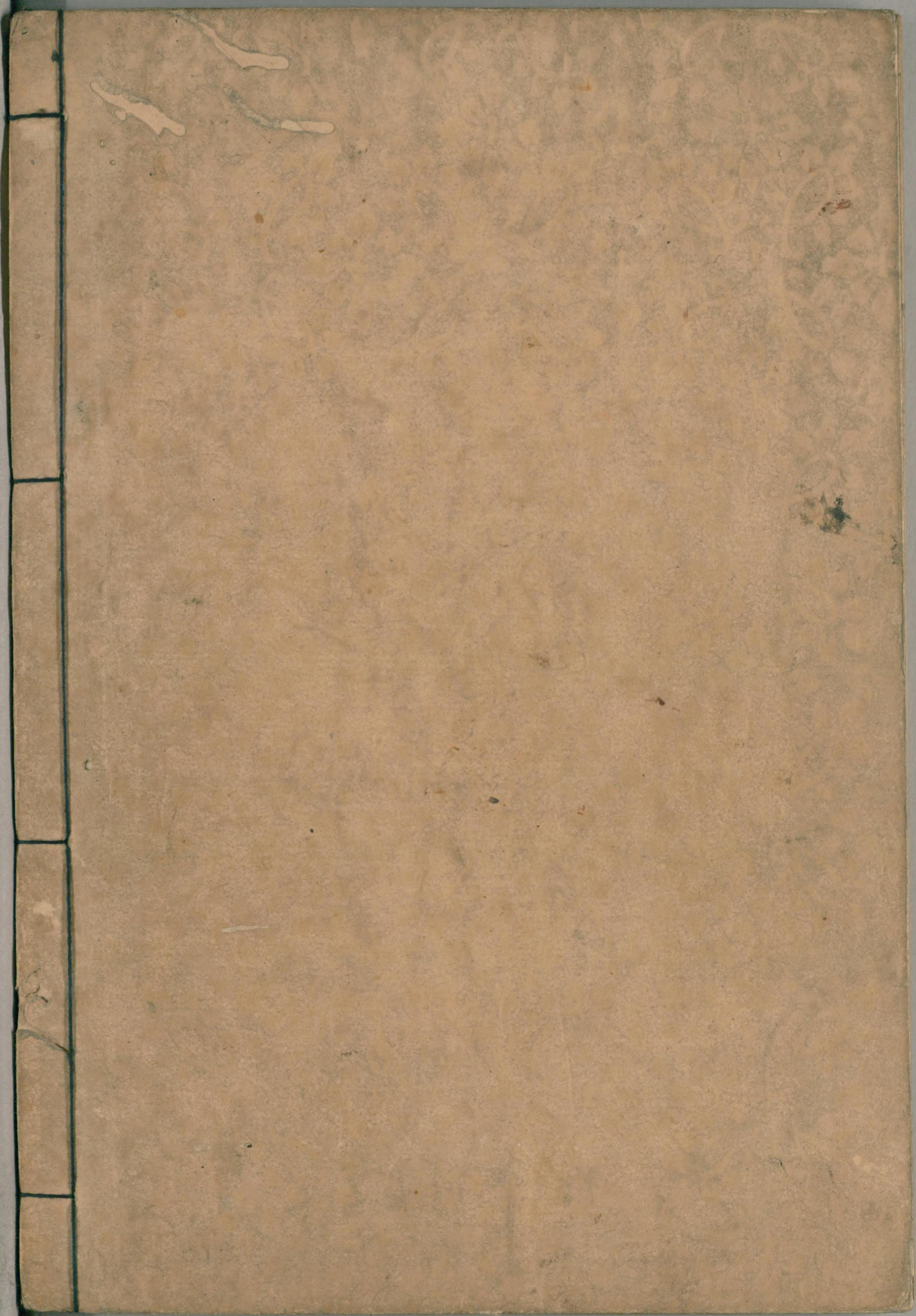
文化發角冬養免

本石町十軒店

萬葉堂英平吉

はいつか板とをるぬらうけさむきとあん
志のまあれと今あれとたきんわんぬよものなる
可い流しつらわたりぬもぬ魚くまこねぬ
入給しつかりたんとたけりくまれぬ分は
いふよりおたなき事しつたきんとならぬわ
うあふはねもいふ
文化の十と習志のきまむし回のきま子





国立国会図書館 タイトル『琴後集 15巻』 請求記号 特1-2223

ガラス使用